

母校を  
たずねる

埼玉県立春日部高

3

悩み迷う3年が糧に

東大大学院教授 野地博行さん =1987年度卒

東大大学院教授の野地博行さん(51)は1987年度卒。生命誕生の謎に、人工の細胞を作り出すことで迫ろうという最先端の研究を続けています。埼玉県立春日部高時代は理系か文系か、進路に迷った時期だったとい、自分を形成する上で重要な3年間でした」と振り返ります。

【萩原佳孝】

研究の道に進むきっかけは小学1年の時、父に買った本を読んだことです。学研のシリーズもので「海のみみつ」という漫画で、生命誕生の謎に迫るシーンが子供心に強烈に印象に残りました。進路は理系かなという思いで高校にも進んだのですが、そこで文化的なことにも興味を引かれていきました。友人たちがいろいろなことを教えてくれた。映画や音楽、哲学……。進路は文系か理系か、ずいぶん揺らいだし、悩みました。

ただ、勉強に関しては「理系なら数学、物理、化学はやらなきゃな」と思っていた」というのが本当のところ。当時、暗記の要素がまだ強かった生物は履修できなかった。おかげで苦手の化学も少しできるようになりました。「わたしも化学の教師になりました」と報告したい思いがあります。春高の3年間は、先生や地域の方々から温かく見守

ってもらっていたように思います。羽目を外したこともありました。最後の線「あいつらは大丈夫だろう」と信頼されていた。スーパーサイエンスハイスクール(SHS)の運営指導委員として、今も春高生らと交流する機会がありますが、教師が生徒を信頼し、生徒たちもそれに応えよう

とする姿は当時と変わらな  
いと思います。

わたしは、生きていくと  
いうことを化学と物理で説  
明しよう、それを一つ一つ  
の分子レベルで解き明かそ  
うという学問(1分子生物  
物理学)に取り組みできま  
した。今、そこから発展し  
て、子どもの頃からやりた  
かった、生命の誕生にかか  
わる実験に取り組んでいま  
す。最新の生命科学の理解  
と全く新しい工学技術を使  
って人工の細胞を作り出す  
うという研究です。

高校時代は、大学受験の  
重圧からなかなか自由にな  
れないと思いますが、序列  
化された、集団の中での自  
分の立ち位置だけにとらわ

卒業生「私の思い出」募集

埼玉県立春日部高校卒業生のみなさんの「私の思い出」を募集します。300字程度で、学校生活や恩師、友人との思い出、またその後の人生に与えた影響などをお書きください。

卒業年度、氏名、年齢、職業、住所、電話番号、あればメールアドレスを明記のうえ、〒100-8051、毎日新聞地方部首都圏版「母校」係(住所不要)へ。メールの場合はshuto@mainichi.co.jpへ。いただいた「思い出」は、紙面や毎日新聞ニュースサイトで紹介することがあります。

れてはいけないと言いたいですね。偏差値だけでは評価できない個性は誰にもあって、それはまだ小さなものかもしれないけれど「自分は何が好きか、何に感動するのか」を見つけ、育てていく作業を積み重ねてほしい。ものごとの限界を突破していく極限のところでは「好きかどうか」がすごく大きいのです。高校、大学時代はその作業を怠ると結局、要領よく生きるということしか目標がなくなってしまう。それではつまらないと思います。

わたし自身も、高校時代は自分が本当は何をやりたいのか迷い、混乱した時期でしたが、それは今の自分を形成するうえで重要な時間だったと思っています。

ポートの作成や発表を通して科学的思考力や論理的な説明能力を身につけることを重視。文系を志す生徒には、社会科学的な研究テーマにも挑戦するよう促す。

エキスパートプログラムには20年度、4人の1年生が応募。同プログラムの授業「SS探究総合」では、科学入門書の輪読と発表▽分子生物学研究の基礎技術として利用されるPCRの実験▽国立天文台准教授による特別講義「地球外生命体を科学する」——といったユニークな活動が行われた。

2月6日には、各プログラムの代表者が成果を発表する「生徒課題研究発表会」を実施した。専門的見地から助言する外部の運営指導委員は新型コロナウイルスの影響で参加できなかったが、生徒同士で活発な質疑が交わされた。SSH推進部主任の黒野正道教授は「生徒は、取り組みを通してさまざまな課題への応用力も身につけていきます。成長を実感することができます」と話す。

次回(28日)に掲載



東京都文京区で、藤井太郎撮影

スーパーサイエンス校 先端目指す「探究」



「SS探究総合」の授業で実験に取り組むSSHエキスパートの生徒ら—春日部高校提供

春日部高は2010年度に文科省からSSHの指定を受け、20年度からの第3期では1、2年生全員が履修する「課題研究プログラム」と、理系研究者などを目指す意欲的な生徒が受講する「エキスパートプログラム」を展開する。

「仮説を立て、実験し、結果を検証する」という科学的手法の実践と、リ